

金賞斗通信

No.34
18/12/18

東京教育大学全学ラヂオ室委員会(事務局発行)

七項目要件に對する大衆的了解

全学の学生諸君は、12月6日文斗争委員会で決定され、ヒ項目心条件の大衆團交要求に対し、昨日評議会から次の如きの回答がなされた。

評議会はさるだけ早速全學集会を開くより努力する。上部評議会メンバーを含む全學衆公と考える。そのについては予備折衝を話し合いたい。3各学部各自組織の要求について公平に対応するつもりである。4、設立團についても予備折衝を話し合いたい。

この回答について我々の基本的な見解は次の如である。この回答は我々の要求の核心については何も答えてこない。評議会の権限が何つかは伏せる。うちにヒ項目要求について何ら討議せず、ただ全學集会を開くことを許可してしまったのである。我々の四条件を拒否したと判断せざるをえり、我々の評議会などの團交を要求したのに反して彼らは自己の團交を意味していいる。彼らは評議会との團交にはちくご有志の教官が一方的説得の場として全學集会を考えているの。2)設立團に項目にせよどりくことに對しては予備折衝で決めるというのでは全く賛成する。我々は曲条件大衆團交を要求しているのである。3)七項目要求を擱ける学生を交渉相手とせると、以上の諸点による、我々はこの回答にあける七項目要求無視、評議会團交拒否を大衆的了解していかねばならぬに至る。

12月6日文斗争委員会で決定された七項目心条件のうち、一部民系系諸君は、す早期解決しることを求めるところ、統一代表團として提出して全學集会を開けた。事態は解決するところである。この間の大學當局の動きから明らかのように、文教費三等部教授会直しにすぎないと、至學集会とは評議会との因

交ではあること等々は、六、一口決定教田が具体的に明確であろう。我々にとてこれは要るのは全學封鎖を実現して強固なバリケードストライキを軸とする限りにあり。理用意はそのまゝなものとしてのりりこと日本程にのぼってきを最終面と把する限りにあり。そこで徹底的攻撃を以てこいくことである。我々は前述したごとくB.C段階など認められのであるからB.Cでの予備折衝にあたる「前一代志士」を出だすと全くナシビンスである。昨日の教育学部における團交の為の予備折衝へ余程予備折衝が好んでいいが、においても明らかなように、民系系諸君は、いくら教授にねがはれて事態は解決しないのだ。その予備折衝、農學生同盟での代表団を遣し出し、十二月中に斗争を收得せんとしているのだ。(東大に於いては、一般学生との矛盾が激化し、七項目要求をのみ、院生等の院外に向かいに、自らの思想性と斗争の可能性とを併せり打こそこそで、当争取扱を兼ねている。)

【文學生大会制備要求署名に対する見解】

昨日、12月20日文學生大會要求の署名が文自斗争ム局に提出された。事ム局の見解は、12月14日車能は進展していないので、11日学生大會の基本的確認を踏まえ今后の運動を展開していく。2)、斗争体制強化については、14日文自斗争委員会において決定、確認していいく、ということであつたが、各クラスかるの意志を収納して17日に最終的な討伐を行つていくことである。

スケジュール

本日 全學總決起集会 2:00~

理疏斗大集会 2:00~ (G502)

* 賞學金の2%力フバを!

へ全學財政局へ

現在一部民系系諸君は、す早期解決しることを求めるところ、統一代表團として提出して全學集会を開けた。事態は解決するところである。この間の大學當局の動きから明らかのように、文教費三等部教授会直しにすぎないと、至學集会とは評議会との因

かちとなるぞ!